

令和6年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終段階)

令和7年3月10日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
めまぐるしく変化していく社会の中で、時代が求める「学び」への取り組みを進め変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。豊かでたくましい人間性を育み、キャリア教育を充実させる。 ◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎ＩＣＴ教育の充実と、校務のＩＣＴ化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む		・スクールミッション、スクールポリシーにより、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。 ・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。 ・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。 ・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。 ・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。 ・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。 ・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践のため、地元地域の力を生かし、次年度のインターンシップ教育に向けて具体的な準備を進める。	◎時代が求める「学び」への取り組み ・主体的学びへの高いモチベーションの構築 ・対話的学びへ向けたコミュニケーション能力の向上 ・「深い学び」及び「個別最適な学び」に向け、タブレット端末等ICT機器を活用した教育活動の充実 ・学力に応じた手立てと指導の工夫 ・規律ある学び風土の醸成 ◎豊かでたくましい人間性の育み ・自己有用感やコミュニケーション力を向上し、他者を思いやり良好で発展的な人間関係を構築する力を身につける ・行事等を通して非認知能力を育み、人格形成を図る ・学校生活全般における生徒の主体的参加の推進 ・部活動の積極的参加と体験活動の充実 ・地域、保護者とともに、次代の社会を築き、守り、担う人材(生徒)を育てる ◎キャリア教育の充実 ・基礎的・汎用的能力の育成を踏まえたキャリア教育の計画・実践 ・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践 ・地元地域の力を活かしたキャリア教育の推進 ・次年度のインターンシップ教育に向けた具体的準備			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
国語科	文章や他者の意図を的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成する。また、言語感覚を磨くことで、自身の考えを伝えるための思考力や想像力を伸ばす。	主体的に思考・表現することができる生徒の育成のため、グループワーク等の言語活動取り入れる。 日頃から、表現するために必要とされる資質・能力を伸ばす工夫を行う。	C	B	B	場面に応じて、講義の時間と生徒が作業する時間を使い分けている。学年末のパフォーマンス課題としてプレゼンテーションを課した科目もあった。生徒が主体的に調べ、発表する機会を設けることで、意見をまとめ、表現する力が必要であるという認識を持たせられた。課題の配信・回収にICTを使う頻度は上がっている。授業規律と学習効果の両立ができるよう、文房具としての扱いを徹底したい。
		聞くこと、書くことを通じて他者や社会と関わろうとする態度を育成する授業づくりに努める。授業規律を意識し、ICT機器を活用する場面と、プリントやノートを用いる場面を区別して、より効果的な学習を行う。	B	B		
地歴・公民科	基礎基本の定着を目指した授業を行うとともに、観点別評価をもとに個に応じた指導を行う。授業の内容と社会事象とを関連づけ、生徒に物事の見方・考え方を身に付けさせ、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。また、未来の有権者として、一人の主権者として現代社会での諸活動に参画する態度を育む。	地理・歴史・公民分野の授業内容を適切に理解させるとともに、時事問題や生徒にとって身近な事柄を積極的に扱い、生徒が自分事として社会の問題を考えられる授業を行う。また、学習の仕方の具体例を示し、個々の学習への意欲を高める。適宜声掛けを行い、生徒の状態を把握し、担任や分掌とも連携して指導を行っていく。学習上で課題を抱えた生徒や日々の声掛けにも応じない生徒、成績不振の生徒への指導としては、目が行き届く環境で作業をさせたり考えさせるなど、工夫した課題に取り組ませる等、個々の課題に応じた指導を行う。	B	B	B	視聴覚教材やICTなどを活用し、時事問題や生徒にとって身近な事柄を可能なかぎり授業で扱い、事例として紹介することで、社会の問題を自分事として捉えさせ、他者と意見交換を行ったり、意見を文で表現させることができた。学習の仕方はオリエンテーションで示し、勉強の仕方の助言を行い、課題のある生徒に対しては担任などと連携をとり指導するなどした。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導は、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等の方法を講じたりしたが、それでも指導に乗らない生徒もあり、そのような生徒に対しては、今後も引き続き根気強く声をかけ、取組の場を設定していきたい。
		文献や新聞記事など多様な史・資料や視聴覚教材、ICTなどを用いて、社会的な見方・考え方を身に付けさせ、現代社会における諸課題を学習し、その諸課題を解決するために必要な知識について探究的に学習させる。また、プレゼンテーション能力を身に付けさせるために、科目の特性に応じて、発表やグループ学習、ディベートなどを取り入れ、他者の考え方にふれたり自己の意見を他者に伝えたりする経験をさせるとともに、主体的に物事を考える力を身に付けさせる。	B	B		
数学科	授業での基礎基本の定着を大切にし、個に応じた指導を行うとともに、観点別評価と指導を一体化する。また、学習指導要領に則したICTを活用した授業展開を研究する。	授業において基礎基本の定着と学習習慣の確立を図る。習熟度別授業を行い、大学受験等を目指す生徒には発展的な内容にも取り組ませ、数学が苦手な生徒には手厚い指導を行うなど、授業の中で個々のニーズに合った指導を行う。あわせて、教科会議にて授業内容や考查内容の検討を行う中で、3学年を通した観点別評価の実施内容について検討する。	B	B	B	・1年生は2学期より習熟度別授業を実施し、数学が苦手な生徒に対しては少人数での授業で手厚く指導できた。また、成績不振者には考查前学習会、不振者指導を実施したが、意欲がなく出席しない生徒も多かったため、まず学習に向かう態度を養う必要がある。3学期は成績不振者数も減少し一定の成果はあったが、数学が苦手な生徒、特に習熟度別授業がない2・3年生には次年度以降も継続して手厚い指導を行う必要がある。 ・基礎的な学力や学習に取り組む態度が身に付いていない生徒が多く、数学的な知識・技能を修得することに多くの時間をとる必要があり、読み取る力やコミュニケーション力を養う授業は、各教科担当がそれぞれに行うだけにとどまり、教科としては実践できなかった。今後は教科担当者間でその実践を交流するなどし、教科としてどのような授業を実践できるか検討する必要がある。
		ICTを活用して、実生活に結びついた事柄を扱った問題を扱い、文章を読み取る力や互いに意見を交流してコミュニケーション力の育成を目指す。	C	C		

理科	社会を担う人材として、基礎学力の定着と向上を図り、主体的に考え学ぶ態度や課題解決能力を育成する。	基礎学力の定着・向上を図るために、日々の授業規律の確保や向上に努め、ロイロノートなどのアプリやICT機器を効果的に活用して、生徒の興味・関心を喚起し、積極的に学習に取り組ませる。また、生徒の日々の学習状況について情報共有を行い、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。	C	C	C	基礎学力の定着・向上に向けては、小テストや課題プリントの提出を課し、授業時間外で学習に取り組む場面を設定するなど、学力の定着・向上に向けた手立てを講じ、一定の成果を得ることはできたが、知識を積み上げたり、習得した知識を活用して考えることに課題のある生徒に対しては、様々な方法で粘り強くアプローチを行ったが、基礎学力の定着には至らなかった。生徒の主体性を育むための機会としては、実験・実習等を通じて実物に触れたり、体験的に学んだりする機会できるだけ多く設定した。また、コミュニケーション能力や論理的思考力等を養う機会としてグループワークや発表等を行うなど、生徒同士がコミュニケーションを取ったり、生徒が学習した内容をアウトプットしたりする機会を設定した。次年度に向けては、生徒の興味・関心や、進路と関連させ、更なる動機付けを行ったり、更なる指導方法や授業スタイルの工夫・改善を行ったりするなど、より一層その集団や個に応じた指導の工夫や充実を図っていく必要がある。
		実験・実習を通して、生徒が実物に触れたり、体験的に学んだりする機会を確保するなど、生徒の主体性を引き出す工夫を行う。また、授業内で生徒同士が積極的に対話や議論する場面を設定して、生徒のコミュニケーション能力や論理的思考力等を養い、課題解決能力の育成に繋げる。	C	B		
保健体育科	・心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を目指す。また、自らの健康や環境を適切に管理し、改善していく能力の育成を目指す。 ・主体的・合理的・計画的で深い学びを目指した授業を行う。	・運動やスポーツに対して、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方があることを理解させ、多くの運動・スポーツの中から自分に適した種目を選択し、生涯を通して主体的に運動・スポーツに親しむ基盤を育てる。 ・ICT機器を活用し、自己や他者の運動動作を確認することにより、自己または他者の課題を見つけ、改善・修正ができる一助となるよう育成する。 ・グループ活動を通して、コミュニケーションを図り、自己の役割を責任をもってやり通す力を見つけさせる。また、これらの活動を通して、協働することの大切さを学ばせる。	B	B	B	・スポーツにより親しめるよう、自分で種目を選択し、より興味を持って、意欲的に取り組むことができた。 ・実技においては、ペアやグループで動画撮影を行い、互いに教え合い、技術や戦術の研究をするなど、主体的に取り組むことができた。また、動画の提出や授業の振り返りについてはロイロノートを利用し、効果的に ICT機器を活用することがおおむねできたが、提出していない生徒もいるので、確実に提出させることが課題である。
		・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意思決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させ、生徒が実生活に生かせるよう育成する。 ・課題学習を通して、調査・研究・発表をさせる。発表の際には、生徒のコミュニケーション能力やICT機器を活用したプレゼンテーション能力を身につけられるように指導する。	B	B		・課題解決学習については夏季休業中の課題として取り組みせ、ICT機器を活用したプレゼンテーションを必須としたがほとんどの生徒が主体的に取り組むことができた。 ・一方的にプレゼンテーションするだけでなく、発表中のやりとりや発表後の質疑応答を充実させるなどのコミュニケーション能力を育てていくことが今後の課題である。
芸術科	感受する豊かな心と表現する力を育てることを目指し、指導方法の工夫を行う。	生徒一人一人が内発的動機に基づいて主体的に学び、教科目標を達成できるように、生徒の実態に応じた教材開発と研究及び指導の工夫を行う。	B	B	B	・芸術科各科目において、本校の生徒の興味や関心に応じたより効果の高い授業実践を考え、実践を進めた。 ・芸術科美術では、タブレットを活用し、途中段階の指導と評価に役立てている。また、班活動で対話的な学びを設定したり、校内展示したりすることによって、学習意欲の向上を目指している。さらに、各課題で何度も補習を設定し、学習の定着やよりよい表現をめざして主体的に粘り強く取り組む姿勢を高めようとした。また、美術系進学希望者に実技補習を行い、進路実現の基礎力を付けた。 ・芸術科工芸においては、今年度11月に文部科学省の学習状況調査の実施校となり、生徒及び教員にアンケートを実施した。 ・芸術科音楽において、春と秋に公開授業を実施し、教科研究を進めた。また、2月に保育系進学の希望者にピアノ実技演習を行い、進学後の礎をつくった。
		表現及び鑑賞の活動を通して、学習内容の基礎基本の定着と活用を図るとともに、より深く学べるようICT機器の活用についても研究を進める。	B	B		
外国語科 英語	あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能・5領域をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。その際タブレット端末の有効的な活用方法を考え、実践する。	1年生については、学び直し教材を通して基礎・基本を身につけさせる。全学年でタブレット端末を活用し、多種多様な学びの機会を増やす。また、4技能をバランスよく伸ばすことを目指すとともに、主体的な学びに繋がるよう、パフォーマンス（音読・スピーチ・自由英作文）を取り入れた授業や評価に取り組む。	C	B	B	成果：各学年でiPadを用いた英語でのプレゼンテーションを行った。生徒に達成感を実感させるために、原稿の作成から発表方法まで丁寧な指導をおこなった。定期考査前学習会や長期休暇時の基礎補充では、参加生徒が学習に対して前向きになれるよう、「やればできる」という感覚を持たせることを重視した。参加を促す声かけも十分に行ったため、参加率を高く保つことができた。 課題：授業での辞書アプリの使用を促してはいるが、何かを調べるときに辞書アプリではなく、翻訳アプリを使用する生徒が散見される。翻訳アプリを使うと、自ら考え文章を構築する力を養う上で弊害が生じるため、今後使用を制限しつつ、辞書アプリを使うことの有用性を伝えていかないといけない。また、辞書を必然的に使わせる工夫も必要になる。
		英語を苦手とする生徒に対しては、つまずきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、個々の進路実現につながる授業や補習を実施する。特に四年制大学への進学希望者には、英検を積極的に受験するよう促す。また家庭学習の充実と習慣化を図るための課題（宿題、小テストの実施）を計画的に提供する。	B	B		
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切にする。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。	・自分自身の生活を見直し、授業で学んだことを生活に反映できるような学習課題に取り組ませ、知識と技術の向上を図る。 ・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。 ・調理・被服製作・保育などの実習における教材や指導方法を工夫し、実践力を身につけさせる。 ・保育技術検定4級合格率100%を目指す。	C	B	B	保育検定については、2・3年生ともに検定の重要性や意図を十分に理解できていなかった生徒が例年よりも多く、合格率も低かった。一方、合格したことで進路決定のための自信につながったと考える生徒も一定数いたため、受験は継続していく。 授業プリントやレポートについては、提出していない生徒への声掛けや再提出の案内を行ったため、一部の生徒は1・2学期よりも提出率が上がった。2学期以降は調理実習も実施することができ、一定の技術は身に着けることができた。ただ、今年度は実習費の回収に難儀して実習期間が短くなってしまったことが課題であった。また、6月中旬～9月ごろは実習室が暑さのため使用が難しいため、年間計画の検討が必要である。 授業の開始時や実習時の身だしなみ指導は定着したが、タブレットについては不適切な使用が一部見られるため、指導とルールの徹底は課題である。
		・授業プリントやレポートを確実に取り組みせ、提出を徹底させる。 ・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。 ・実習時の服装、身だしなみ、タブレットのルール、衛生安全面についての授業規律を確認させ、周知徹底する。 ・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。	C	B		

情報科	授業規律を確保するとともに、「深い学び」を養うため、実践的・体験的な学習活動を重視し、発表や相互評価を通して、互いに高めあい、共生社会の中で生き抜く力を育成する。	授業規律の確保に努める。特に、授業開始時終了時の挨拶、身だしなみのチェック、指示を聞く姿勢など、落ち着いて学習できる環境が生徒自身の自覚により生まれるように指導する。	B	B	B	おおむね授業規律を守ることができた。全体的に身だしなみは整っており、指示を聞く姿勢や落ち着いて学習に取り組むこともおおむねできた。情報活用では学んだ技術を活用できる作品制作と発表までできた。その後、相互評価と改善の機会を設け、さらに改善を行った。情報演習ではデータからグラフを作成するスキルを身につけた。フロンティア校の発表では自信をもって自分たちの学習成果を発表できた。質疑応答にもきちんと答えることができ、他校の発表に対して積極的に質問をすることもできた。総合的な探究の時間では外部講師を招いて動画作成や生成AIの利用など、ICTを活用してスキルを高めた。DXハイスクールの取り組みと関連させて授業内容を改善していきたい。
		情報活用では学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。情報演習ではデータをみて情報整理するスキルを身につける。探究的な学習の時間を通じ、社会に貢献できる人間を育てる。	C	B		

評価の基準 A:十分達成できている、(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校運営協議会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	